

大盛況 シニア自然大学校 25周年記念式典



シニア自然大学校開講 25 周年の記念式典が 11 月 29 日 天満橋ドーンセンター7 階ホールで行われました。

同時に、尾池和夫先生(後述)による記念講演があり、迫りくる「南海トラフの巨大地震」について拝聴できました。

第一部記念式典の参加者は少なめでしたがそれでも 230 人程の皆さんが出席しました。第二部の一般受付が 13:30 から始まると来場者がどっと詰めかけあっという間に会場は埋まっていきました。

集計によりますと、一般参加者の参加率が 63%弱であったとのことで、少し残念なところがありますが、当日の来場者は 450 人(一般 129 人、関係者・会員 321 人)を数え、大変盛大な式典となりました。第二部受付の間に上映された「シニア自然大学校 25 年の歩み」では、20 分もの時間がと

られましたが、4 半世紀の歩みを紹介するには足りなかったのかもしれませんが。

第一部式典は冒頭で壇上の当校役員の紹介が行われ式次第に記載したとおりに進み、個人表彰では、シニア 3 期・自然 2 期までの皆さん(辞退者除く)に長年の活動への感謝状が贈られました。菅井先生からは、広報誌「自然と仲間」の紹介もいただき、そこに掲載されている当校の活動の豊富さに賞賛をいただき、關先生からはお祝いの花をお届けいただき受付で披露されていました。



写真:菅井 啓之 先生

写真:關 隆晴 先生

第二部記念講演には高等科の講座で毎年お世話になっている中島保則先生(一般社団法人日本気象予報士会 理事・副会長 関西支部長)も来場されていましたが、ご一緒に NHK 大阪放送局の「おはよう関西」のお天気キャスターでおなじみの塩見泰子さん(気象予報士)も来場されていました。先生のお誘いで同行させていただいたとのことで、座席の周辺はひととき華やかな空気で包まれていました。

式典直後に届いた「自然と仲間」の封書には、記念行事の一つ、25 周年記念誌「シニア自然大学校 25 年の歩み」も同封されていました。今回の式典では多くのスタッフの皆さんが準備と当日の運営にご活躍いただきました。ありがとうございました。もう一つの記念行事「25 周年記念コンサート」は 2 月 16 日に予定されています。会員皆さんのご協力を得てシニア自然大学校のメッセージ広く発信しましょう。



写真上:団体表彰 中央左より

大阪市森ノ宮少年少女発明クラブ(岩永 周生氏 20171126 文部科学大臣賞受賞) 茨木バラとカシの会(太田 仁氏 20180613 環境大臣賞受賞) 奈良・人と自然の会(鈴木 末一氏 20170428 総理大臣賞受賞) いこま棚田クラブ(西屋 哲雄氏 20170524 国土交通大臣賞受賞)

写真下:個人表彰

村瀬いり子さん(シニア 1 期) 林美正さん(自然 1 期)が壇上で 16 人を代表表彰されました。以外の表彰者は、明石安弘、上杉孝彦、岡田弘、北坂正晃、小島洋子、竹沢宜之、田中正一、谷村英紀、寺田晴彦、松本郁子、米良郁子、山口進、湯川健三、渡辺波留美(敬称略)の皆さんです。

濱面 誠 代表理事挨拶

今日まで学校の先生方、企業、行政の皆さんのご支援により、25 周年を迎えることができた。当校は学んだことを地域社会に還元することに特徴がある。地域の皆さんとともに活動することが大切だ。年間 4600 回延べ 15 万人参加者を集めた活動を行っている。近い将来の高齢化社会に備え、社会のニーズにあった活動をさらに発展させていきたい。

菅井 啓之 先生 祝辞

故長井会長よりお誘いを受け 2 期より講座を受け持ってきた。最初は規模も小さいものであったが、参集する人たちが増え活動の内容も広がり、広報誌「自然と仲間」を見ていると素晴らしい活動実態が見えてくる。これまで自然大学校は分化多様化してきたが、これからは自然をトータルに捕え私たちの生き方を考えていかなければならない。各分野の小さな窓から、自然界の全体のことにも目を凝らし、自然を見る目を養っていかなければならない。分化し多様化してきた遠心力から、深まりのある求心力に目を向け



全体性への回復の風を大いに吹かせ、人生を豊かに生きるための自然大学校であって
ください。

關 隆晴 先生 祝辞

「地域と連携した学校教育ができる教員養成」というプロジェクトを行っているが、その活動の場ははじめ池田や平野、天王寺、大学本体の方までもシニアの方にサポートをいただいている。

12年前(2006年)大阪教育大学と協力して文化の部門としてのシニア CITY カレッジを立ち上げられた。「団塊の世代」が社会のお荷物でなく有益な人材となるようにと、社会貢献を掲げられているが、自然大学校・CITYカレッジに元気に参加すること自体が一つ目の社会貢献だととらえています。そしてそうした場を作っていく自然大学校の運営そのものも二つ目の社会貢献です。三つ目は社会に出て様々な活動をおこなうこと。大学校自体が社会貢献を行っている場です。これからも 文化 歴史 健康 を含め講座の方を広げていただければと考えている。歌手竹内まりやの歌に「・・・この星の片隅でめぐり会えた奇跡は どんな宝石よりも たいせつな宝物・・・」とあるように、「この星の片隅」で皆さんがこうした出会いの場を作っておられること、そのこと自体に非常に大きな意義がある。質の高い生涯学習の場、出会いの場をますます発展されるように。

南海トラフの巨大地震 その日は 2038年12月 !!

記念講演で、尾池先生はその日は 2038 年 12 月と大胆に予測されました。ちょうど 20 年後です。聴き入っていた多くのシニアたちは、「大丈夫、それまでは生きていない」と思ったことでしょう。私は孫に思いを寄せ、「大丈夫、自分の力で逃げられる年になっている」と。

講演は右記講演内容の順に行われました。「序」では自己紹介とお話しされながら、25分以上も話され、筆を使い絵を描いたチンパンジーがドヤ顔をしたという話には会場からどっと笑いが起こっていました。

今年の6月に高槻市震源の地震がありました。この事にも先生は話されていましたが、いつ次の南海地震が起こるか、これは私たちにとっての重大事です。熊本の地震も、東日本の地震も、巨大地震にははっきりと予兆があると、そしてと火山の噴火とも相関性が高く、富士山も噴火すると予見されていました。スライド資料ではその時を「2030～2040」と示されていましたが「2038年12月」は統計解析に基づくものだと話されていました。きちっとした知識を持って、覚悟をさだめてその日に備えることが大切だと、改めてお教えいただいた講演ではなかったのでしょうか。講演の中で、住所を入力することによりその場所の揺れやすさなど、防災情報を調べることができるサイトを紹介いただきました。検索キーワード：「地盤サポートマップ」(<https://www.j-shield.co.jp/supportmap/>)早速試してみましたが、私の住まいの状況(右図)は

浸水の可能性：5m以上 地震時の揺れやすさ：揺れやすい
液状化の可能性：やや高い 土砂災害の可能性：なし
となっていました。地震 洪水に大変弱い場所に住んでいることになり
ます。皆さんも調べてみてください。

先生の講演は多岐にわたり紙面で詳しくご紹介することができません。尾池先生のホームページでは今回の講演の資料そのものではありませんが、かなり近い内容の資料が公開されています。検索キーワード：「尾池和夫の地震、活断層、俳句、エッセイなど」(<http://catfish-kazu.la.coocan.jp/>)を是非ご覧になってください。

「2018年4月17日、京都学Ⅱ 第1回、講義に使ったパワーポイントです。」

25周年記念式典次第

第一部 記念式典(13:00～13:30)

当校代表理事挨拶 濱面 誠
来賓祝辞

京都光華女子大学教授

菅井 啓之 先生

大阪教育大学名誉教授

關 隆晴 先生

団体表彰(4団体)

個人表彰(16人)

スライド上映(13:40～14:00)

「シニア自然大学校25年の歩み」

第二部 記念講演(14:10～15:40)

「2038年南海トラフの巨大地震」

講師 京都造形芸術大学学長、

元京都大学総長

尾池 和夫 先生



尾池和夫 (おいけかずお)

1940年生まれ。京都大学理学部地球物理学科を卒業後京都大学に勤務、2003年12月～2008年9月 京都大学総長、京都大学理学博士、福島第一原子力発電所事故調査・検証委員会委員などを歴任。著書に『日本地震列島』(朝日文庫)、『2038年南海トラフの巨大地震』(マニュアルハウス)など多数

講演内容

序／世界の巨大地震／震度とマグニチュード(M)／2011年東北地方太平洋沖地震／巨大地震の前兆現象／東日本大震災／安定大陸と変動帯／日本列島／これからの地震活動／地球社会の調和ある共存



「国際京都学協会の第 45 回研究会(2015 年 3 月 10 日)の記録です。講演題目『地震—今後の 20 年を予測する』
と題したところをクリックすると詳細な記載を読むことができます。 (広報 芳澤)